

2024年度 法科大学院

第1期入学試験問題

2時限

民法

(論文集)

試験時間 50分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民法]

[設問 1]

利益相反行為の判断基準について説明しなさい (15 行以内)。

[設問 2]

未成年者たる X の父 A はその経営する会社 (パソコンおよび周辺機器の販売会社) が倒産した結果、Y とともにパソコン等の仕入れ、販売等の共同事業をすることとなったが、この事業も継続不能となって中止するハメに陥ったので、A の負担すべき事業上の損失金 900 万円を Y から A に対する貸金とし、その代物弁済として、A は妻である X の母 B とともに、X の親権者として X 所有の甲不動産を Y に譲渡したうえ、売買名義で Y に所有権移転登記をした。

X は Y の所有権取得登記の抹消を求め訴訟を提起した。以下の (1) および (2) に答えなさい。

- (1) 代物弁済のための甲不動産の譲渡が A について利益相反行為となるか、論じなさい。
- (2) 代物弁済のための甲不動産の譲渡の効果を X に帰属させるためには、A と B が代理権をどのように行使すべきであったか。その代理権行使の方法について、いくつかの考え方を挙げながら、自身の考えを述べなさい。

以上